

□ 持続可能な開発目標(SDGs)に関する取組み支援 ～地域の「食」や「防災」をテーマとした体験型・旅行型の教育プログラム開発

Keyword: SDGs、システム思考、ESD、教育旅行、防災意識

研究の概要

本研究では、地域と学校教育をつなぐさまざまな活動を行っています。

1. 食の教材化と教育旅行の開発

食と深く関わる一次産業の振興には、地域活性化を中心として、消費者保護や雇用機会の創出、再生エネルギー普及など様々な課題が相互に関係しあっています。それらの全体像を通して初めて、食や一次産業の価値が理解されます。

生産・流通・消費という食にまつわる一連の流れをたどりながら、持続可能な地域社会づくり(SDGs)につながる体験型の教材および教育旅行を共同開発します。



生産地と工場見学の総合コーディネート
(イメージ)

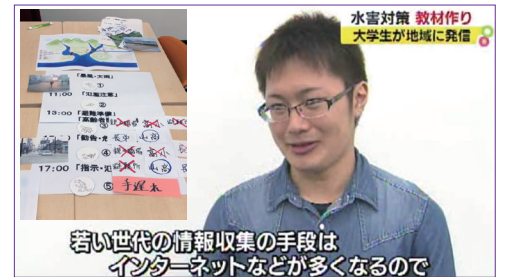
2. 防災意識向上のための教材開発・研修

自然災害に対する防災意識の向上は急務の課題です。

地域の実態に即したケーススタディーを積み上げることが重要ですが、それとともに、新たな視点からの防災を見つめなおし、「慣れ」や「飽き」からの脱却が求められています。

本研究では、静岡河川事務所、静岡地方気象台、静岡県庁等と連携し、地元密着型の防災教育を行っています。

特に、近年の異常気象に対して有効な、スマートフォンやPCを用いた最新の防災情報の収集トレーニングにも対応しています。



防災情報教材 (テレビず2017年12月11日放送)

・特筆すべき研究ポイント:

国連が定めた「持続可能な開発目標」(SDGs)の考え方を基礎とした研究教育活動に取り組んでいます。SDGsには、多方面にわたる様々な活動を「つなげる」「可視化する」といった点に特色があります。

各種の事業は、業界や組織全体を見通しながら展開されるべきですが、実際には縦割りの専門性の中で日々展開されています。ここに、「教育」という“色のついていない”中間的なアクターを介在させることで、双方の意思疎通のきっかけや、健全な広報の役割を持たせることができます。

またその成果は、学校教育でいえば、教員研修の機会でも積極的に活用されます(教員免許状更新講習など)。「学校の先生にまずは知ってほしい」という場合には、自主研修よりも参加率の高い免許状更新講習でのプログラム化が有効です。



国際連合広報センターより

アピールポイント



山本 隆太
教職センター
特任准教授

■ 相談に応じられる関連分野

- ・ 郷土学習
- ・ 防災教育
- ・ 地理教育
- ・ SDGsに関する教育 (ESD)
- ・ 教員養成研修
- ・ ジオパーク
- ・ ドイツ語圏の各種動向調査
- ・ 日独通訳

■ その他の社会連携活動

- ・ 日本ジオパークネットワーク運営会議 教育ワーキンググループリーダー
- ・ 伊豆半島ジオパーク 教育部会 委員
- ・ 日本地理学会地理オリンピック実行委員
- ・ 地域の自然と社会のつながりに関する研究